

今般、『糖尿病診療事典(第2版)』が医学書院から出版された。本書は1996年初版以来、糖尿病診療にかかわるすべての医療スタッフに重宝された『糖尿病治療事典』の改訂第2版である。

今回、「診断基準」、「病型分類」を時代に即したものに一新し、「経口薬療法」を全面改訂、「インスリン療法」、「食事療法」の章をはじめ160名の執筆者による最新の情報が記載されている。編集代表者の繁田幸男先生(滋賀医科大学名誉教授)の第2版の序によると「糖尿病に関する考えられる限り広範にわたる項目を再検討し、最新の知識を提供した」とある。書名も「糖尿病診療事典」に改題したものである。

繁田幸男先生は、現在、日本糖尿病学会の重鎮として活躍中の先生で、日本糖尿病学会の教育セミナーでご講演を拝聴する機会に恵まれた折、その糖尿病診療への熱い情熱と明快な格調高い講演に感銘を深くし、魅了されたものである。

本書の160名にもものぼる膨大な執筆者は、日本糖尿病学会における各分野のエキスパートの先生方である。特に編集者に糖尿病の心理学についてのわが国の第一人者である石井均先生が新たに参加され、現在、最も注目される「糖尿病患者の心理と行動」の章が新設されていることも本書の魅力となっている。また、EBMの時代に対応し「糖尿病診療の大規模臨床試験」を網羅しての記載など、最新の情報を得ることができる。

本書は、糖尿病診療や患者教育の現場で、必要な知識が即座に得られる項目立てがしてあり、疫学と予防から患者組織に至るまで、きめ細かい24のカテゴリー別に330項目に分類した本文と資料で構成されている。各項目は1,2頁でまとめられ、必要なときにコンパクトな知識を得ることができるばかりでなく、本文中に参照ページが入り使い勝手のよい編集となっている。さらに、特色として目次はカテゴリー別のものと、五十音順電話帳式に配列したキーワード目次の両者を設け、略語一覧が巻末にまとめられている。

日本糖尿病療養指導士認定機構による日本糖尿病療養指導士(CDEJ)も、2004年6月現在、1万人を超す10,026名が認定された。21世紀における国民健康づくり運動「健康日本21」では、2010年の糖尿病有病者数を生活習慣が改善されない場合、1,080万人と推定している。糖尿病有病者の目標減少率を7%として、80万人の減少を掲げている。DPPスタディによる一次予防のための生活習慣改善群の効果は明らかである。1万人以上になったCDEJの活躍が期待される。

本書が、糖尿病診療に携わる全医療スタッフ必携の書であると同時に、糖尿病療養指導士すべての座右の書として活用されることを願うものである。

(A5判 584頁 定価5,880円(本体5,600円+税5%))
(2004年 医学書院 刊)